校内研究の概要

平成２７年４月８日（水）
研究推進委員会（中山）

１．研究主題

仲間と共に学び合い、「自らの学びを高める」子の育成

～　支持的風土のある集団の中で、児童が自己の成長を感じ、学習意欲を高める授業　～

２．主題設定の理由

（１）本校の教育目標に関わって

本校の教育目標である**「豊かな心をもち、自ら考え実践するたくましい子」**で願う児童の姿は以下の通りである。

・自らの学びを高める子	・仲良く助け合える子	・素直で明るく強い子

こうした姿は、知・徳・体のバランスのとれた児童の姿であり、学習指導要領で継承されている理念『生きる力』を身につけた児童の姿であるととらえている。

本校では、このような児童をめざすには、『仲間と共に学び合い、「自らの学び」を高める子』を育成することが大切であると考え、「教科、道徳、特別活動、特別支援教育等」を通して育成しようとしている。

（２）これまでの研究（成果と課題及び本校の児童の実態）に関わって

本校では、昨年度から、研究主題を『仲間と共に学び合い、「自らの学びを高める」子の育成』に改めると共に、副題を「共に学び合う場を設定し、自らの高まりの自覚に迫る授業」を掲げ、１単位時間の学習過程に「仲間と共に学び合う場」と「自らの高まりを自覚する場」の２つを位置づけて実践してきた。

昨年度、授業における児童の実態は次のようであった。

○小学校低学年において意欲的に学習に取り組む児童が多い。
○仲間と学び合うことで、新しいことを知ったり、分からないことが分かるようになったり、できなかったことができるようになった児童が多い。
○ハンドサインを使って、自分の立場を明確にしながら、話す児童が多い。
○ペアやグループといった学習形態の中で、「学び合う」ことができる児童が多い。

▲学年が上がるにつれて、学習意欲の低い児童の割合が増える傾向がある。
▲授業の中で、自己の成長を感じることができた児童の割合が少ない。
▲自己をふり返る視点が少ないため、自己の成長に気づかない児童が多い。
▲ペアやグループでの話し合いに比べ、全体の話し合いでは発言者が限られる傾向があり、学級の中に支持的風土が十分に構築されていない。

また、研究推進に関わって、「目指す児童の姿に至るための道筋」や「自らの学びを高める子が持っているであろう資質・能力及び態度」といった点が曖昧であり、共通理解できなかったことや、研究チーム同士の交流がほとんど行われなかったことにより、研究の深まりに欠けたことが課題として残った。

そこで、２７年度の本校における研究は、研究主題は昨年度と同様とするが、副題を「支持的風土のある集団の中で、児童が自己の成長を感じ、学習意欲を高める授業」と改め、より児童の実態を大切にし、児童の課題である①「自己の成長の自覚」、②「学習意欲の向上」、③「支持的風土のある学級集団づくり」の３つに主眼をおいた研究を進めていくことにした。

３．研究テーマについて

（１）研究テーマの定義

【仲間と共に学び合い、「自らの学びを高める」子】

わかるまで、できるまで**意欲的に個人や集団で問い続け**、新たな知識、見方・考え方・感じ方、学習の構えを獲得することで、**自らの高まり（自分の成長）を自覚**し、さらに意欲を高めていける「自己教育力のある」子

本校がめざす児童像を実現するために育てたい**資質・能力及び態度**を以下の４つと考える。

仲間と共に学び合い、自らの学びを高める力（本校が育てたい資質・能力及び態度）			
①課題に向かう意欲	**②自力で考える力**	**③学び合う力**	**④振り返る力**
○興味・関心をもち、問題を把握する ○解決への見通しをもつ	○既習や得た情報を活かして考える ○自分の考えをまとめて表現する	○自分の考えを根拠を明確にしながら自信をもって話す ○人の考えと自分の考えを比較・関連させながら聞く ○自分の考えを練り直す	○学んだことを整理する ○自分の成長を自覚し、価値付ける ○友達のよさを認め、価値付ける

上記のような４つの資質・能力及び態度を育成するための授業は、副題に掲げるような

支持的風土のある集団の中で、児童が自己の成長を感じ、学習意欲を高める授業

であり、そのような授業を実現するための要件は以下の４つであると考える。

４つの資質・能力及び態度を育成するための授業の要件

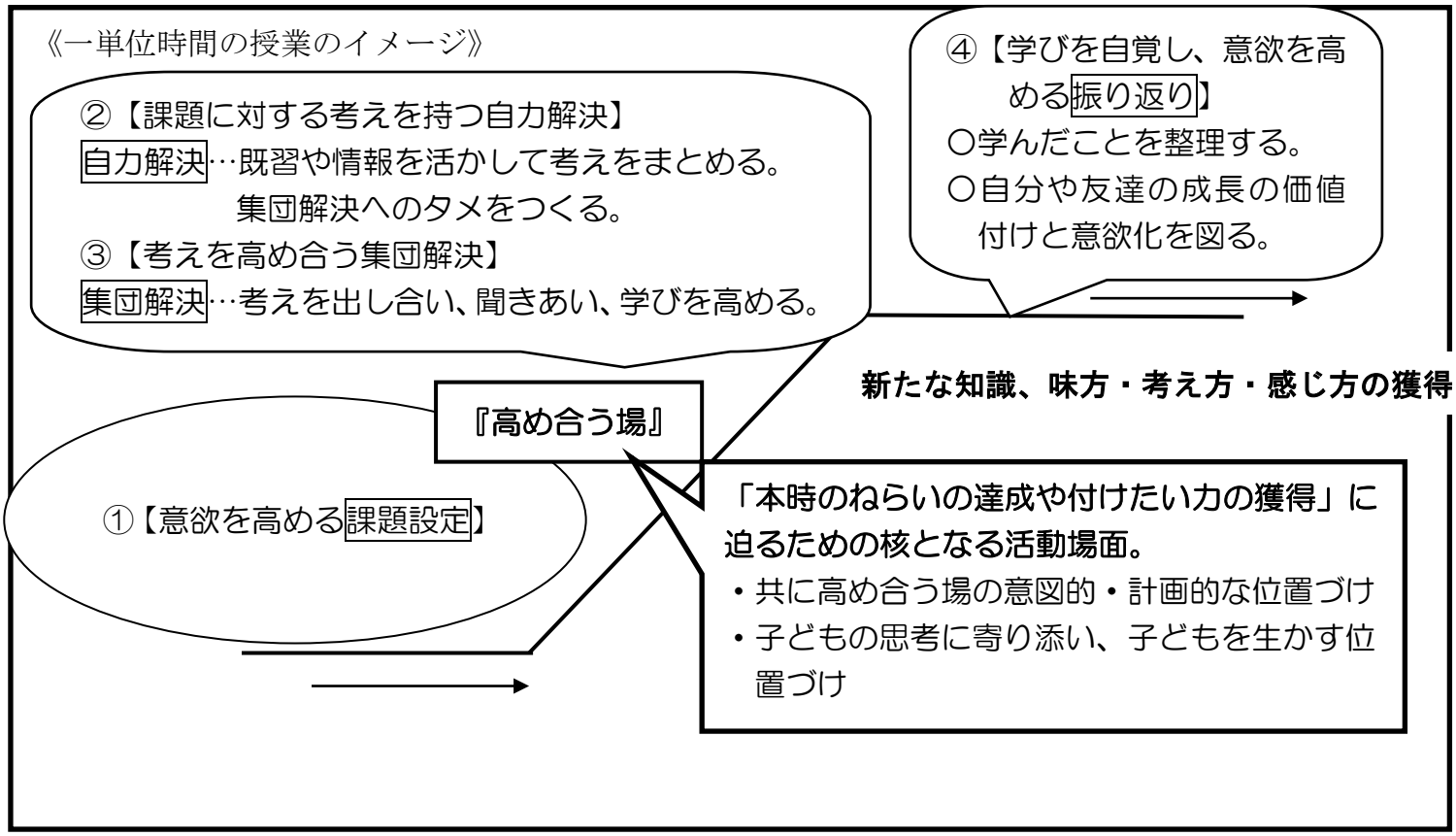
①意欲を高める課題設定　②課題に対する考えを持つ自力解決

③考えを高め合う集団解決　④学びを自覚し、意欲を高める振り返り

本年度は、今年度目指す子ども像を実現するための授業の要件として、４つのことを意識した授業実践に取り組んでいく。

（２）一単位時間の授業イメージ

授業実践を進めるにあたって、どの授業においても一人ひとりが自らの高まりの自覚に至ることを目指していく。具体的には①意欲を高める課題設定→②課題に対する考えを持つ自力解決→③考えを高め合う集団解決→④学びを自覚し、意欲を高めるふり返りへとつながっていく学習過程を基盤とした授業づくりを行う。



４．研究仮説

支持的風土を学級内に構築し、授業において、①意欲を高める課題設定→②課題に対する考えを持つ自力解決→③考えを高め合う集団解決→④学びを自覚し、意欲を高める振り返りという学習過程を踏み、それぞれの学習過程において、指導方法の工夫を行えば、仲間と共に学び合い、「自らの学びを高める」子が育つであろう。

５．研究内容

（１）以下の視点に沿って目指す子ども像に至るための指導のあり方（しかけや手立て）を探る。

（２）各種系統表の実践的見直し（話す・聞く力、育てたい、資質・能力及び態度）

【研究の視点】（こんな視点で指導のあり方を考える）
（１）児童が興味・関心をもち、問題を把握する課題設定にするには？
（２）児童が解決への見通しをもつ課題設定にするには？
（３）既習や得た情報を活かして考える自力解決にするには？
（４）自分の考えをまとめて表現する自力解決にするには？
（５）自分の考えを根拠を明確にしながら自信をもって話す集団解決にするには？
（６）人の考えと自分の考えを比較・関連させながら聞く集団解決にするには？
（７）自分の考えを練り直す集団解決にするには？
（８）学んだことを整理する振り返りにするには？
（９）自分の成長を自覚し、価値付ける振り返りにするには？
(10) 友達のよさを認め、価値付ける振り返りにするには？
(11) 支持的風土を学級内に構築する朝の会・帰りの会にするには？

６．研究の進め方

（１）本年度の研究
・仮説検証型の研究の方式をとる。
・ ○○○において、△△△を□□□すれば、■■■■■になるであろう。
（内容・場）　　（手だて）　　（目的・願う子どもの姿・結果）
・児童を「目的・願う子どもの姿」にするために、指導の手立てやしかけを工夫し、効果的な指導の手立てやしかけを探っていく。

（２）研究単位
・基本的に各学年を１チームとしたチーム研究を行う。（ひまわり学級は３クラスで特別支援教育チームとする。）
・その他に、実践を交流し、研究を深めるために「低・中・高学年研究部会」や「全体研究会」を行う。

（３）研究の進め方
①研究推進委員会による今年度の校内研究の計画と立案
②各チームで研究計画を立てる。
③各チームで研究仮説の検証を目的とした授業実践と振り返りを行う。（５月～１２月）
④低・中・高学年研究部会を開き、実践を交流する。（６月、１１月）
⑤全体研究会（中間報告会）を開き、実践を交流する。（１０月）
⑥チーム研究のまとめをする。（今年度うった手だての成果と課題　１月）
⑦全体研究会（研究のまとめ）を開き、各チームの実践を報告する。（２月）
⑧研究推進委員会による全体のまとめをする。（総括：成果と課題、次年度の研究に向けて　２月）
⑨本年度の研究実践をまとめ、本年度の研究集録を作成する。（３月）